



後方互換性の有効化

- [Catalyst 9800 WLC デバイスと Cisco Prime Infrastructure 間の後方互換性の有効化](#) (1 ページ)

Catalyst 9800 WLC デバイスと Cisco Prime Infrastructure 間の後方互換性の有効化

Cisco Prime Infrastructure 3.10 はデフォルトで Catalyst 9800 17.6.1 をサポートしていますが、Catalyst 9800 16.12.x バージョンに切り替えるオプションがあります。バージョンを切り替えるには、以下の手順に従ってください。



重要 常に、1つのバージョン (16.12.x または 17.6.1) のコントローラのみがアクティブになります。デフォルトでは、Cisco Prime Infrastructure 3.10 を最初にインストールすると、Catalyst 9800 17.6.1 のサポートがアクティブになります。

始める前に

nsdiag にアクセスするための管理者権限があることを確認してください。

nsdiag を有効にします。詳細については、最新の Cisco Prime Infrastructure コマンドリファレンスガイド [英語] の「`ncs run diag`」セクションを参照してください。

ステップ 1 <https://<prime ip>/ncsdiag/coralService.html> url を使用して Catalyst 9800 バージョンを変更します。

ステップ 2 [Coral Service] ページで、[Change coral] をクリックして、Cisco Prime Infrastructure 3.10 でサポートされている現在の Catalyst 9800 バージョンを変更します。

例：[Coral Service] ページで、[Current Coral] バージョンが「Coral 17」と表示されている場合、[Change Coral] をクリックすると、「Coral 16」に切り替わります。

図 1: Coral Service

Coral Service

Current Coral : "Coral 16"

Change Coral :

*** After changing coral service, prime need to restart manually. For Prime HA, need to switchover a**

ステップ 3 Cisco Prime Infrastructure が高可用性モードの場合 :

- Catalyst 9800 17.6.1 を使用していて、Catalyst 9800 16.12.x に切り替える場合は、プライマリおよびセカンドの Cisco Prime Infrastructure インスタンスが同期するまで待つ必要があります。
- Catalyst 9800 16.12.x を使用していて、Catalyst 9800 17.6.1 に切り替える場合は、スタンバイの Cisco Prime Infrastructure の /opt/CSCOLumos パスから **.coral16** ファイルを手動で削除する必要があります。

ステップ 4 Cisco Prime Infrastructure が高可用性モードでない場合は、ステップ 5 に進んでください。

ステップ 5 Prime Infrastructure の再起動

重要 バージョン切り替え後のサーバーの再起動は、新しい Catalyst 9800 の変更を有効にするために不可欠です。

ステップ 6 /opt/CSCOLumos/coralinstances/coral2/coral/bin ディレクトリに移動し、**./coral version 1** コマンドを実行して、Catalyst 9800 バージョンが変更されているか確認します。

バージョン **Catalyst 9800 17.6.1** に変更した場合、期待される結果は次のとおりです。

```
ade # cd /opt/CSCOLumos/coralinstances/coral2/coral/bin/
ade # sudo ./coral version 1
BuildTime: 2021-07-30_14.55
ReleaseDate: Fri-30-Jul-21-16:16
BuildArch: x86_64
Platform: CORAL
Build: 17.06.01
BuildPath: /nobackup/mcpre/release/BLD-V17_06_01_FC6/binos
Version: 17.06.01.0.250.1627682159..Bengaluru
InstallVersion: 1.0.0
BootArch: Linux Name Space Container
Host System uptime: 0 days, 23 hours, 36 minutes, 13 seconds [84973.16 sec]
Coral service uptime: 0 days, 23 hours, 15 minutes, 53 seconds [83753.89 sec]
```

バージョン **Catalyst 9800 16.12.x** に変更した場合、期待される結果は次のとおりです。

```
ade # sudo ./coral version 1
BuildTime: 2019-07-30_16.43
ReleaseDate: Tue-30-Jul-19-08:15
BuildArch: x86_64
Platform: CORAL
Build: 16.12.01
BuildPath: /scratch/mcpre/release/BLD-V16_12_01_FC4/binos
Version: 16.12.1.0.544.1564530231..Gibraltar
InstallVersion: 1.0.0
BootArch: Linux Name Space Container
```

```
Host System uptime: 4 days, 22 hours, 24 minutes, 7 seconds [426247.80 sec]  
Coral service uptime: 4 days, 0 hours, 16 minutes, 28 seconds [346588.20 sec]
```

```
ade #
```

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。